

令和6年度
「こうとう未来ミーティング」
実施報告



江東区

江東区

政策経営部 広報広聴課

令和7年3月

令和6年度「こうとう未来ミーティング」概要

【1、目的】

区政運営の参考とするため、区民からのご意見やご提案を区長が直接伺い、開かれた区政を推進する。

【2、テーマ】

区長が掲げる8つの施策（当日配布資料参照）

【3、実施形式】

グループワークによる意見交換

【4、開催日程・開催場所】

回	日程	地域	会場
1	5月29日(水)	東陽・木場	江東区文化センター 展示室
2	6月19日(水)	豊洲	豊洲文化センター ギャラリー
3	7月 9日(火)	小松橋	小松橋区民館 タウンホール
4	7月25日(木)	亀戸	亀戸文化センター 大研修室
5	8月 9日(金)	大島	総合区民センター サブ・レクホール
6	8月23日(金)	砂町	砂町文化センター サブ・レクホール
7	9月 8日(日)	白河	深川江戸資料館 レクホール
8	10月24日(木)	富岡	深川東京モダン館 多目的スペース

（平日）午後6時30分～8時30分、（日曜日）午前10時～12時

【5、参加者】

各回35名程度（区内在住・在勤・在学）

●会場参加者：30名程度

●オンライン参加者：5名程度

【6、募集方法】

区報、HP等による募集

【7、受付方法】

申し込みフォーム、電話、窓口等による受付（申込順）

A vertical bar on the left side of the page with a color gradient from light blue at the top to green at the bottom.

当日配布資料

(第8回配布分)

こうとう未来ミーティング

江東区が進める8つの政策

誰もが笑顔で活躍できる“まちづくり”

日時

令和6(2024)年10月24日(木)
18時30分～20時30分

場所

深川東京モダン館 多目的スペース

こうとう未来ミーティング

本日の内容

18:30	開会
18:35	区長からの政策説明
18:45	意見交換
19:28	休憩
19:33	発表(全体で共有)
20:21	まとめ
20:26	記念撮影
20:30	閉会

01

区民の誰もが 健やかに安心して暮らせる“まち”



長寿サポートセンターの機能強化・体制整備

その他の主な項目

- ・第16特別養護老人ホーム等の整備
- ・もの忘れ予防検診の対象者追加
- ・認知機能AIチェックツールの導入
- ・孤独・孤立対策の官民連携体制整備
- ・高齢者のデジタル活用の支援



02

災害に強く、 誰もが安全・安心に暮らせる“まち”



避難所運営サポーターの
育成



AIを活用した
地域リスク情報の収集

その他の主な項目

- ・災害情報システムのリニューアル
- ・国・都・江東5区が連携した広域避難検討
- ・民間との協定による垂直避難場所の拡充
- ・障害者の個別避難計画を福祉専門職の協力により作成
- ・生活衛生用品等の備蓄強化



03

子どもが輝く、 子育てが楽しい“まち”



私立保育所等の人材確保経費補助

その他の主な項目

- 学校給食費の無償化の継続実施
- 未就園児の定期的な預かり事業の開始
- 家事・育児サポーターの対象を
3歳未満の子を養育する全家庭へ拡大
- バースデーサポート事業の対象拡大



04

女性も障害のある方も、 誰もが自分らしく輝ける“まち”



困難な問題を抱える女性・ひとり親等を
包括的に支援する生活応援課の新設

その他の主な項目

- 日中サービス支援型障害者グループホームの整備
- 区役所2階の障害者手作りショップに分身ロボットを
活用した重度障害者等の就労環境を整備
- 末期の若年がん患者の在宅療養経費補助
- 男性のHPVワクチン任意接種費用の助成



05

住みたい、住み続けたい、 魅力と活気あふれる“まち”



返礼品付きふるさと納税の実施
(シティプロモーション担当課長の新設)

その他の主な項目

- ・(仮称)千石駅周辺地区まちづくり方針策定に向けたまちづくり協議会の設立・運営等の取り組み支援
- ・地域をつなぐ新たな交通手段の導入検討
- ・新庁舎整備の基本構想策定



06

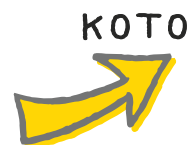
「江東」らしさを大切に、 さらに発展する“まち”



事業承継や事業転換に取り組む中小企業の支援

その他の主な項目

- ・「豊洲 千客万来」施設内の観光案内所を活用した区の魅力発信、区内周遊施策
- ・新1万円札の顔「渋沢栄一翁」関連イベント等の実施
- ・プレミアム率30%の区内共通商品券発行の継続実施



07

豊かな「水」と「緑」、 最先端の「便利」が共存する“まち”

ゼッチ
ZEH(※)・東京ゼロエミ住宅(※)への助成
(国・都補助へ上乗せ)

その他の主な項目

- ・環境学習情報館「えこっくる江東」等への急速充電器整備
- ・若洲公園リニューアルに伴いCO₂排出量実質ゼロの「江東区版ゼロカーボンパーク」整備
- ・区内4か所目の区民農園となる(仮称)砂町区民農園の整備



※ZEH

創エネ・省エネ等により生活で消費するエネルギーと生み出すエネルギーの収支ゼロを目指した住宅

※東京ゼロエミ住宅

断熱性の確保と設備の効率化により省エネ性能等を向上させた東京都独自の基準を満たした住宅

08

DXやAIを活用した、 区民とともに創る新しい“まち”

Pick Up! 行政事務に文章生成AI(チャットGPT)を活用

その他の主な項目

- ・区民の皆さんの意見を伺う「こうとう未来ミーティング」の開催
- ・行政手続きのオンライン化等のDX(※)推進
- ・スマホ等での道路損傷などの通報システムの導入や統合型GIS(※)での道路管理情報の一元化



※DX

デジタルトランスフォーメーション。情報通信技術の活用により、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

※統合型GIS

地方公共団体が利用する地図データのうち、複数の部局が利用するデータを各部局が共有できる形で整備する庁内横断的なシステム

大久保区長からの区民の皆さんへの
3つの約束

**全ての世代に
責任をもつ区政**

人生の先輩・現役・
未来の世代の暮らしに
責任をもつ区政を
実現します。

**区民生活
最優先の区政**

区民の皆さんと
同じ目線に立ち、
声に耳を傾け、
区政に活かします。

**クリーンで
公正な区政**

風通しの良い
職場環境を整え、
皆さんの思いに寄り添う
区政を実現します。

ご意見カード

1 高齢化への対応など：区民の誰もが健やかに安心して暮らせるまち	
2 防災対策、防犯への取り組みなど：災害に強く、誰もが安全・安心に暮らせるまち	
3 子育て支援、子ども支援、教育対策など：子どもが輝く、子育てが楽しいまち	
4 女性活躍、共生社会への取組など：女性も障害のある方も、誰もが自分らしく輝けるまち	
5 都市整備、まちづくり、観光など：住みたい、住み続けたい、魅力と活気あふれるまち	
6 産業振興、文化・スポーツ、地域コミュニティなど：「江東」らしさを大切に、さらに発展するまち	
7 環境対策、緑、水辺活用など：豊かな「水」と「緑」、最先端の「便利」が共存するまち	
8 区民参加、区民サービスの向上など：DX や AI を活用した、区民と共に創る新しいまち	
最も興味があるテーマ（1 つ） ◎	No.
興味があるテーマ（2 つまで） ○	No.
	No.
ご意見	
お名前（差し支えなければご記入ください）	

※グループワークで使用します

※お帰りの際に回収させていただきます

第8回「こうとう未来ミーティング」アンケート

本日は「こうとう未来ミーティング」にご参加いただき、どうもありがとうございました。
今後の施策への反映やミーティングの運営の参考とするために、アンケートにご協力ください。

1 本日の運営について、該当する項目に○をつけてください。また○をつけた理由やご意見があればご記入ください。

質問	選択肢					理由など
本日のこうとう未来ミーティングは満足いただけましたか。	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	
江東区の施策（8つのテーマ）について、ご理解いただけましたか。	十分に理解できた	おおむね理解できた	どちらともいえない	あまり理解できなかった	理解できなかった	
開催日時や時間（長さ）は適切でしたか。	適切	やや適切	どちらともいえない	あまり適切ではない	適切ではない	

2 運営全般についてその他のご意見や感想があればお答えください。

3 本日、発言できなかった、あるいは伝えきれなかったご意見があればお聞かせください

4 今回のこうとう未来ミーティングは何でお知りになりましたか

区報	ホームページ	X（旧Twitter）	LINE	Facebook	チラシ	広報板	その他（ ）
----	--------	-------------	------	----------	-----	-----	-----------------------------

あなたの年齢、性別などについてお聞かせください

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	回答しない
----	------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-------

性別 男 女 回答しない

お名前

差し支えがなければご記入ください



各回の実施報告

第1回「こうとう未来ミーティング」(東陽地区)

日 時 : 令和6年5月29日(水曜日) 18:30~20:30

会 場 : 江東区文化センター 展示室

参加人数 : 34名(内、オンライン参加4名) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・たばこ問題について、消防署や警察署と一緒に区全体で対策を取り組んでほしい。おそらく火災や吸い殻のポイ捨て、受動喫煙による健康被害も減る。喫煙所を作った上で、そこ以外ではたばこはやめてくれということ始めてよいので、たばこ問題が解決できたら、この区は本当に素晴らしくなっていると思う。
- ・江東区は、短期間で急激に発展したまちです。しかし、江戸の文化、古い文化も大事にし、地域振興に繋げて、もっと盛り上がるまちにしてほしい。

【グループ2】

- ・8つの政策に関して均等に意見があったが、その中でも共通していたのは、高齢化に関するものだった。
- ・防災にも関わるが、地震が起こったときにどうやって高齢者をどう支援するかという問題から話を深掘りした。
- ・一つの組織だけではなく児童館、消防署、町会、区の施設等、各組織が横断的に関わるができる立体的仮想的な組織ができるのではないかと。その組織を作るための音頭取りを区役所に担っていただきたい。
- ・区役所の建て替えに関して、意見交換会を開かれているが、そういう機会をもっと増やして、計画についてもっと区民の意見を吸い上げていただきたい。

【グループ3】

- ・8つの政策の中で一番多かったのは「子育て・教育」について。例えば公園で、こどもが遊ぶことが、うるさいという理由で制限されているが、本来公園はこどものためにあるべきではないか。こどもを優遇してくれる街になってほしい。
- ・バスに乗った時にバギーを持っていると、白い目で見られているのではないかという不安を持ったお母さん達が多いような気がする。実際に子育てをするにあたって、不安がまだ拭えない。そのため、こどもを産もうという気になれない人が多いのではないか。
- ・給食費を優遇するとか健康保険を優遇するのも大切だが、そういう経済的なものではなくて、実際の将来の不安が拭えないと子育てに踏み切れないのではないか。
- ・防災に関して、区から配布された防災備蓄用ラジオは、聴覚障害者にとって役に立たない。できれば、ほかの自治体でも配っている、文字の出る、見えるラジオだとありがたい。
- ・避難所でペットの扱いをどうするか、揉めると思うので、区である程度ルールを決めてほしい。例えば、猫アレルギーの方等への対応について考えていただきたい。
- ・区民サービスについてDXに取り組むとのことだが、先般の補欠選挙はたぶん投票率が低かったため、投票率を上げるためにもDXを活かしてほしい。
- ・深川地域の橋や水を活かしてほしい。世界には水で有名な街はベニスなどたくさんあるが、水で有名なまちとして江東区を思い浮かべるインバウンドの人はいないと思う。

【グループ4】

- ・子育て支援について、こどもを預かってくれるところがなく、働くことが大変で、生活に支障をきたしているので、一時保育サービスをもっと拡充してほしい。
- ・有償のボランティア活動があるが、お金ではなく江東区の商品券をお渡しすると、江東区の経済が潤うのではないか。
- ・都市整備、まちづくりについて、住んでいる地域でマナーの悪い人たちが目立ってきているので、防犯・防災対策の取り組みを強化してもらいたい。
- ・障害者のグループホームで働いていて、なかなか部屋や作業所を借りることができないため、空き店舗や空き家があれば活用していただきたい。
- ・グループ内で一番話題が多かったのが災害時の防災について。町会の方と一緒に、実際にどういうものが足りないかとか、こういうことが出来ればよいという意見を出しあった。
- ・こどもや女性のことを考えた避難場所を作ってもらいたい。実際に体育館や避難所で宿泊訓練をすると課題が見えてくるのではないか。

【グループ5】

- ・建設から40～50年のマンションが多く、建て替えの時期に来ている。所有権を持つ高齢者にとっては手続き等が難しく、なかなか計画が進まないのでは、補助金だけではなく実際にどうやったら建て替えができるのかサポートしていただければ助かる。
- ・がん患者への助成として、ウィッグ等の補助があるそうだが、他にも外見が変わることによって生活に支障が出る方がいるので、それ以外にも助成をしていただきたい。
- ・引っ越してきた際、住民票と本籍の移動の手続きに2日掛かったため、DX含めて、素早い対応をしていただきたい。
- ・パートナーシップ宣誓制度について、もう一度俎上に載せていただきたい。
- ・空き家問題について、パトロールはだけでは根本的な解決になっていないので、対応していただきたい。
- ・運河の活用について、防災対策や観光の活用ができるのではないかな。
- ・保育園について、日曜日に預けられるところ少ないので、もうすこし増やしていただきたい。女性のキャリア形成にも繋がる。
- ・東陽町はこれから有楽町線延伸により、交通の要になっていく。イースト21から羽田空港へのバスの便を増やすことで、利便性の向上や企業の誘致になる。

【グループ6】

- ・このグループでの話題は、高齢化への対応、防災対策、区民サービスの向上などがあったが、一番盛り上がったのが防災対策。災害時にどうやって対応をしたらよいのかというところを重点にディスカッションした。
- ・災害で一番気になるのは江東区民54万人の方がどうやって手を取り合って、お互い助け合うのか、ということ。江東区外から移住された方、もともと地元にいる方などの間に、分断があるのではないかなと思う。そうした中で、災害が起こったときに、住民がどうやって手を組んでいくのか、地域防災力をどう高めていくのか。
- ・災害時の情報の受け取り方について、使っているツールが高齢者、若者にとって、アナログであったりデジタルであったりと、バラバラなので、ハイブリッドで取り入れながら、世代差を繋ぐ企画やコミュニケーションをとることなど、ぜひ区で取り組んでいただきたい。また、災害があったとき、どういう属性に所属されている方も、区が発信する情報を必ず取れるようにしてほしい。

【オンライン参加者グループ】

- ・このグループは、参加者の中に子育て真っ最中であったり、ご家族に障害のある方がいらっしゃるって、共生社会への取り組みについて高い関心と意見をいただいた。当事者の方もいらっしゃる。その中で、子育て、あるいは女性活躍共生社会への取り組みについて一番活発な意見が出た。
- ・区役所に分身ロボットが登場するっていうことに対して期待している。
- ・今までの防災グッズやパンフレットをいただいているが、いざ発災したときに使いこなせるのかどうか、障害のある人が避難できるかどうか心配。
- ・都市整備、まちづくりについて、共生社会と関連するが、これからできる新駅に期待する一方で、今、豊洲駅などは混雑していて、ベビーカーの人がエレベーターを使いづらいということもあるので、ぜひバリアフリー化を進めてほしい。
- ・子育てとも関連するが、路上喫煙が気になる。
- ・新駅ができるにあたり、縦方向の移動が期待される一方で、コミュニティバスでも高齢の方、子育て中の方も無料で使えて、区内の縦移動ができるようになるとうい。
- ・子育て中のシングルマザーであると、こどもは保育園に預けられるが、親の具合が悪くなったときに助けを求めづらい。子育て支援はこどもだけではなく、それを支える親の支援やサポートが、行政だけではなく、お互いが支え合えるとよい。

第2回「こうとう未来ミーティング」(豊洲地区)

日 時 : 令和6年6月19日(水曜日) 18:30~20:30

会 場 : 豊洲文化センター ギャラリー

参加人数 : 21名(内、オンライン参加3名) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・ボランティアについて、クラウドソーシングを導入してはどうか。地域活性化にも繋がる可能性がある。
- ・東京オリンピック・パラリンピックのときのようにボランティアの活用はすごくよいことだと思う。
- ・「江東区らしさ」という話の中で、一番上に「千客万来」がなぜ出てくるのか。区外の人向けの施設だと思われるが、江東区民のことを考えた時に本当にそれでよいのか。
- ・区長の所信表明を拝見しており、書いてあることは全部よいと思うが、「今こういう状態のものが、こうなる」という、定量的な表し方をぜひお願いしたい。例えば要介護者は江東区に何人いて、1年後には半減させる、というように、現状と目標を数値にし、そのために長寿サポートセンターに、人員をつけるなど。その費用対効果も区民に見えるように、区報などで周知してもらいたい。

【グループ 2】

- ・豊洲の公園で納涼祭をしているが、お祭りをする上で電気がないので電気設備を付けてほしい。
- ・シビックホールでコンサートをやる時に休める場所がない。
- ・潮見にお店が少なく、ドラッグストアもないので誘致してほしい。
- ・コミュニティの活性化の上でシニアの人たちを活用し、教育に携わっていただき、地域の人材を有効活用してほしい。
- ・区内には大企業や中小企業があり、最近は副業が解禁されているところもあるので、その人たちを活性化してほしい。
- ・「何が足りない」とか「助けてほしい」とか、逆に「元気な人がいます」といったさまざまな地域の情報がうまく回ってない。そういった情報をマッチングしてほしいと思う。ただ「こういうところでお祭りをやっています」とか「人が足りません」という紹介だけではなく、もう一步踏み込んで、区が積極的に情報を届けたり、募集をかけたり、お金を補填することなど、お願いしたい。
- ・素晴らしい情報や人のパワーもあると思うので、活性化していただきたい。

【グループ 3】

- ・一番多かった意見は防災対策について。江東区にはタワーマンションが多く、これだけの住民が生活していて、在宅で避難ということにはなっているが、本当に発災した時にどのように過ごすのか。お年寄りも本当に避難生活ができるのか。対策が必要ではないか。
- ・地域コミュニティについて、マンションで年配の方と若い子育て世代の繋がり、また、昔からある歴史のある街と、あとは新しく建ったマンションとの繋がりが希薄化している。
- ・地域の繋がりを作るために、お祭りや盆踊りなどが、すごく大事ではないか。有明ではお祭り等がなく、新しい街では繋がりが生まれにくい。何かきっかけ作りが欲しい。
- ・巨大なマンションと、小ぶりなマンションがあるため、学校の生徒数がアンバランスな状態になっている。もう少しバランスのとれるように、学校作りや住民の環境作りができないのか。

【グループ 4】

- ・都市整備等について意見がでた。
- ・観光推進をしたいのはわかるが、江東区にはコミケ（コミックマーケット）などもっと利用できることがある。
- ・水上交通を発展させたらよいのではないか。
- ・地域のコミュニティが大事ではないか。自分の住んでいる地域には自治会がない。コミュニケーションがあれば災害時とか、こどもが不登校になった時などにも安心できる。
- ・妊娠中の方が近所で地域と繋がれるような仕組みや、10代の子が妊娠したときの性教育、妊娠した子のサポートなどが大事。

【オンライン参加者グループ】

- ・参加者はどの方も子育て中で、乳幼児の方から高校生までそれぞれいろんなお子さんをお持ちの方で、話題も子育てに関することが中心だった。
- ・目の前に小学校があり、そこに行かせたいが学区域が違って歩いて30分ぐらいのところに行かなければならない。親としてはとても心配している。昔の住宅地のままの学区域になっているが、江東区にはたくさんマンションができ、そういう現状に合わせて学区域なども変更してもらえないか。
- ・不登校のお子さんを持ちの方については、不登校になって、それに対するケアが今十分ではないということ、また、学びの多様性という意味でも、もう少し区の方でサポートをしてもらえないか。そういったケアが行政として不十分のために、親が休職せざるを得ない状況になっている。
- ・豊洲3丁目や5丁目はどんどん発展しているが、4丁目は少し取り残されているような気がする。駅の出入口が階段しかないので、もう少し4丁目も発展してほしい。
- ・防災に関して備蓄がどうなっているのか。例えば、粉ミルクは備蓄されているようだが水があるのか。最近は液体ミルクがあるようだが、アタッチメントもないと使えない。
- ・性教育の話も出た。
- ・こどもの「お金の教育」も民間と協力しながら学びの機会を作り、将来困らないように、できないか。

第3回「こうとう未来ミーティング」(小松橋地区)

日 時 : 令和6年7月9日(火曜日) 18:30~20:30

会 場 : 小松橋区民館 ホール

参加人数 : 25名(内、オンライン参加3名) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・ 人的支援、障害者の保護者を支えるボランティアや保護司など、江東区で頑張っている方が高齢化している。65歳を過ぎてきて体力的にも厳しい中で、親を支えるために寄り添いながら、新たなボランティアを教育する事業もしているが、とても苦勞している。
- ・ 助産師として母親たちに関わっていると、母親たちは、たとえ10万円もらっても100万円もらっても、不安はなくなる。安心というのは困ったときに助けてくれる人がいるなど、寄り添いが必要ではないか。
- ・ 高齢者の問題として、病院に行けないという問題や、実は助けてくれる場所があるのだが、そこに連絡しなかったり、そういう施設の存在に気付かないこともある。例えば、「地域食堂」のように、行くと何かちょっと良いことがある、メリットがあるような場所ができるとよい。
- ・ 日本人は産後すぐ頑張ってしまうので、産後ケアや無償で休める環境づくり等、休みやすいように変えていかないといけない。
- ・ 少子化の原因の一端は、若者の貧困ではないか。
- ・ 今の若い人たちにとって子育ては苦行で、最初にお子さんの抱き方から教えなければならぬ。父親学級や母親学級でもそうだろうと思うが、こどもと触れ合う機会が少ない。
- ・ 今の日本の性教育は生殖教育ばかりだが、性教育というのは自分の身を守る、人権教育だという視点を持っていただきたい。

【グループ 2】

- ・高齢化への対応では、誰もが孤立しない居場所づくりが大切なのではないかと。人と人とのつながりが防災対策にもつながる。
- ・災害時の病院の連携はどうなっているのかという疑問が出た。
- ・学校給食の有機農薬減農薬をまずお米からだけでも実現し、日本の低い食料自給率を上げていくことで、農家を守り、こどもたちの健康も守っていききたい。
- ・水辺の活用として雨水をうまく利用したらよいのではないかと。
- ・インターナショナルスクールが最近できて人流が変わり、都バスに乗れない人たちが出てきたという問題もある。
- ・誰も孤立しない場所づくりに関して、私は、高齢の方でもこどもでも家族でも、お金がある人もない人も、元気な人も元気じゃない人も、誰でも来られるという食堂をやっている。しかし、「こども食堂」でないと区から助成してもらえない。こども限定ではなく助成していただけるとありがたい。助成金が出る場合でも、横とつながりたいと思っても「それは各自でやってください」という話だった。区がサポートして連携できたらやれることが増えると思う。
- ・防災について、避難所に行く際に持っていく物のマニュアルのようなものを、簡単でいいので、区でつくってほしい。例えば、歩きやすい靴を玄関に置いておく、使い慣れた枕や入れ歯を忘れてはいけないといった情報をみんなで共有できたらと思う。

【グループ 3】

- ・防災関係では、海に近い地域の津波が気になる。
- ・保育士さんの人材確保については、保育士さんの経済的な問題があるのではないかと。保育士がやめてしまい、保育園や幼稚園がなくなっている。区でも対応してもらいたい。
- ・区立小学校の教育に関して、学校の PC の活用状況が、江東区が求めている理想の形が現場で実現できていない。外部の大学生のチューターや民間の IT 人材の方が入ることで、先生の負担を軽減しながら、何か一助になることがあるのではないかと。

【グループ 4】

- ・ 日常生活の安全について、大きい道路に信号機をつけてほしいと警察に相談しているが、なかなか警察は応じてくれない。普段の生活の安全というところで、区にも関わってほしい。
- ・ 防災について、国の施設等が避難場所になっていても、土日だと閉まっているので「確認してから避難して」ということだが、その情報の窓口がわかりにくい。
- ・ 学校で配られている PC のこどもたちの利用状況を見て、うまく活用されてないなと思った。有名なゲームの教育版があり、こども達は自分からパソコンをいじって自分から学ぶことができるため、インストールの許可をしてほしい。
- ・ 踏切事故や園児のバス置き去り事故などが今後起こらないように、事故ゼロを目指して、予防の視点で行政がリードしてほしい。

【グループ5】

- ・ 町会長もいらっしゃったので話を聞いたが、防災対策、防犯への取り組みなどで、しっかりと避難先を確保されている町会があった。
- ・ 子育て支援について、病児保育の質の担保をしてほしい。病児保育を江東区では今後 2 カ所増やす予定だと思うが、委託料の増額により、その企業側、運営者への支援を厚くすることで、保育士への対応も含め、質を上げてもらいたい。
- ・ 都市整備について、「住みたい、住み続けたいまちを目指す」とのことだが、高齢化に伴って一人暮らしの方が家売って、家賃の安い区外に出て行くという方が増えているらしい。そのような状況を改善してほしい。
- ・ 地域コミュニティの 1 つとして車いす等何らかの障害のある方のコミュニティをもっと作れないか。「紹介」というキーワードで少し解決できるかもしれない。
- ・ 今マンションが増えてきていて、マンションの自治会によっては町会に入って街とのつながりというのを大事にしてくれているところもある一方で、そうではないところもある。どうやって町会に入るかわからず、入れてない人を少しでも減らしていくためにも、マンションの住人が町会とコンタクトを取ることを区の条例に定めて、町会に入るきっかけ作りをしていただきたい。継続的につながりを持つことで、防災対策の認知度も、町会を通して、地域に浸透させることができるのではないかな。

【オンライン参加者グループ】

- ・主に高齢者の福祉についての話題になった。長寿サポートセンターは、情報を得たり、実際にサポートしてもらう上でも非常に役に立ったという一方、実際にサポートが必要にならないとこのような施設について知る機会がなかった。若くて健康なうちから長寿サポートセンターに実際行ってみることができると良いし、存在を広く周知してほしい。
- ・うまくインターネットを使えない人、1人で住む高齢者などは、必要な情報にアクセスできないという問題がある。そこで、普段から地域コミュニティに入ってもらい、あるいは行政がそういった人に対して積極的に情報を提供するなど、何らかの工夫が必要ではないか。
- ・特別養護老人ホームの整備について、今はニーズが高いけれども、長期で見ると高齢者が減っていく可能性もある中で、長期的に見て本当に必要なものを必要な分だけ整備するという視点が必要ではないか。
- ・DXについて、もう少しペーパーレス化が進むとよい。
- ・子育てについて、「バースデーサポート事業」というのを初めて聞いた。

第4回「こうとう未来ミーティング」(亀戸地区)

日 時 : 令和6年7月25日(木曜日) 18:30~20:30

会 場 : 亀戸文化センター 大研修室

参加人数 : 15名(内、オンライン参加1名) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・防災対策について、もっと意識を高める活動をしなければいけない。災害時にどこに逃げるかはわかっているけれど、実際に行動したことがないので、そういう避難訓練ができれば良い。
- ・まちづくりや地域を支えていく上で、組織作りがとても大切だが、江東区は広く、人の繋がりが少し希薄になっているので難しい。
- ・亀戸には香取神社など歴史あるお寺や神社が多いので、周知して、観光事業をもっと進められないか。
- ・子育てについて、東京都の出生率0.99はかなり低い数字だと思う。こどもが生まれる前のケアが必要だが、情報の発信が不足しているのではないか。出産後のサポートは結構あるが、こどもが生まれる前のサポートをもう少し考えてほしい。特に、新婚家庭にもう少し安い家賃で住んでもらうことができないか。また、加えて、プレコンセプションケアという考えも入れて支援してほしい。
- ・もう少しすると高齢の仲間入りになる。会社勤めをしていると繋がりがあるが、高齢ボランティアや仕事も含めて繋がりをつくれる機会を設けていただけないか。
- ・ゴミ問題について、分別したゴミがどのように資源化されるのかということを広報していただきたい。
- ・自動運転バスのことをテレビで見た。バス運転手は人手不足なので、AIやDXを使って、自動運転バスができないか。それをサポートする仕事を高齢者ができるのではないか。

【グループ 2】

- ・豊洲は、近くにビッグサイトなど施設や素晴らしい夜景があり、インターナショナルなまちなので、IT のスタートアップの場として使えたり、区内の中小企業の技術グループもできていると思っている。
- ・在勤の人も江東区の委員会等に参加させてもらい、意見を区に伝えたい。
- ・子育てについて、「リフレッシュひととき保育」で預けられない時間、例えば朝の 8 時半から預けたいとか、6 時頃まで見てほしいなど、様々な要望がある。預けられる時間が 3 時間までだったり、お昼をまたぐと使えなかったりすることに不便さ感じている保護者が多い。また、1 人で子育てせざるを得ず、非常に不安があるが周りには相談できる身内もないし、情報がありすぎて、何を信じていいのかわからない方たちもたくさんいる。
- ・保護者たちのために地域で頑張っている子育て支援団体は、地域と子育て世代と繋いでいる拠点にもなっており、地域の共生社会の足がかりである。ぜひ子育て支援団体を地域の大事な資源の一つとして活用、支援してほしい

【グループ 3】

- ・こどもに対しては、不登校、ひきこもり問題があるが、こどものコミュニティ作りとして、学童や地域センターがあるというだけでは難しい。遊びの中で心がほぐれ、信頼関係が生まれ、そこから友達ができ、こども同士の横の繋がりが生まれる。そういう段階を踏んであげないとこどものコミュニティを作るのはすごく難しく、どういうアプローチでコミュニティを作っていくかということが大事である。
- ・若者が、そもそもコミュニティを知らないということが問題ではないか。特に、江東区の良さとか住みやすさとか、地域活動についての情報などが、大学生や 20 代の若者には入ってきてない。
- ・「こうとう未来ミーティング」のような会は、予約制ではなく、若者がふらっと行くカフェや公園で、ディスカッションができると参加しやすくなるのではないかな。また、高齢者は遠出することが困難なため、歩いて行ける近い場所でこういう会などがもっとあると参加しやすくなる。
- ・自転車道と車道の整備について、高齢者の方のことを考えてもっと必要になってくるのではないかな。
- ・区のホームページは調べにくい。若者には SNS が、一番情報収集できる手段である。
- ・生きづらさは多分どの世代にもあり、総じてコミュニティが大事である。実態調査が大事で、各世代に足りてない部分や、ニーズをもっと調べ、コミュニティを作っていくことで、参加しやすくて住み続けられるまちになるのではないかな。

【グループ 4】

- ・豊洲は有名だが、亀戸の事を知らない方が非常に多い。かつて「副都心計画」があり、亀戸も対象範囲だったが、現在副都心という感じではない。江東区の中で、まちづくりにおいて亀戸という地域が忘れられていないか。亀戸天神など、この街にあるものはポテンシャルが高く、JRの駅もあり、立地も良いが、知名度が足りない。亀戸にもっとスポットライトが当たるような政策があった方が、より江東区全体にとってもプラスなのではないか。
- ・福祉の話では、孤独死されている高齢者もいるようなので、その対策をどうすれば良いか。
- ・障害者福祉については、どこに相談すればいいのかという情報が伝わっていない。
- ・子育ての政策は他の区よりも、江東区は優れている。
- ・防災対策について、今後自然災害は必ず起こるので、災害が起きたときの減災が重要で、そうすると、人と人の繋がりが不足していることが課題となる。地域に知り合いがいないので、避難する際に、地域の誰に頼めばいいのか全然わからない。防災避難を考えたときに、もっと人と人の繋がることのできる機会を増やしていただきたい。
- ・避難所の設備（個別のブースやトイレなど）をもっと多様化することが必要。避難所はいろいろな方が来るので、早急に設備を準備していただけると安心できる。

第 5 回「こうとう未来ミーティング」(大島地区)

日 時 : 令和 6 年 8 月 9 日(金曜日) 18:30~20:30

会 場 : 総合区民センター サブ・レクホール

参加人数 : 18 名(内、オンライン参加 2 名) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・防災について、障害のある方への対応が問題提起としてあった。ハザードマップで得た知識や津波の危険がわかっても具体的に何をすればよいかわからない。だから「怖いよね」で終わってしまうのではないか。
- ・都市整備に関して、まちが綺麗になった一方でネズミが最近目撃されている。また、ハクビシンやウミネコも増えているので江東区として何かできることはないか。
- ・障害のある方も当事者として参加されていたが、例えば江東区の取り組みとして「インクルーシブセーリング」や「ボッチャ体験会」といった体験を共有できる取り組みがあるが、その情報がみんなに届いていない。
- ・情報発信について、SNS がある一方で、区報のようなアナログな情報源は、家に届くし、自分の興味のなかった情報も載っていて、見やすくまとまっており、意外と面白い。新しい手法を試すのもよいが、区報のようなものも残していくべきではないか。
- ・DX について、目的と手段を間違えると問題である。例えばマイナンバーカードが保険証になるとか、区のサービスがオンラインで申し込めるようになった時、高齢者にとっては、親切ではないことがある。
- ・江東区や、図書館のウェブサイトなど使っているが UI (ユーザーインターフェース) が直感的じゃない。DX を推進するのは素晴らしいが、DX によって問題を解決することに集中していただきたい。
- ・江東区避難所運営サポーターについて、29 歳以下の若い人を募集しているということだが、このグループでは誰も知らなかった。災害があったときに、若い人の力は絶対に必要。若い人や外国の方などみんなが繋がって、コミュニケーション取りながら災害対策ができれば良いと思う。ぜひ若いサポーターが増えてほしい。

【グループ 2】

- ・住民同士の個別の人間関係はあるが、横の繋がり、コミュニケーションがシステム化されておらず、それが防災、子育て、高齢者の問題など全てに関係しているのではないかと。行政がコミュニティづくりを手伝ってほしい。江東区に住みたい、住むとみんなが幸せになるというような、ソフト面の問題に落とし込めていない。そのため、全体として、何か足りないという感じがしているのではないかと。
- ・こどもを見るお年寄りによる有償ボランティアのようなシステムを作ると、若い親は助かる。こども食堂は開いている日数が少なく、これでこども食堂をやっていると言えるのか。
- ・区内には団地がいくつもあり、住んでいる高齢者の活躍が活躍することで、みんなが得になり、みんなが自分の力を発揮でき、みんなが喜ぶというシステムが必要で、それは行政が絡まないと難しい。また、他の区では学生による高齢者支援をすでにやっている。
- ・若い人が、何かお手伝いをすることによってマンションの家賃を安くする、という提案があった。
- ・ボランティアに参加すると、自分にもメリットがある、という発想が必要。高齢者は喜びと感じ、若い人は便利だと感じられ、繋がることのできるシステムが要る。
- ・いろいろなことを通してコミュニケーションのきっかけ作りをやってほしい。江東区は団地が多いので、高齢者のいる団地に、若い人には安い家賃にして手伝ってもらおう。
- ・こども食堂もそうだが、若い人と子どもと高齢者が交流できる。そういうソフト面を構築してもらえると良い。
- ・荒川沿いの水辺や大きな公園はなかなか東京にはない。ちょっとした山歩きをしているような感じを受けるところもある。仕事に疲れた人もリフレッシュできる癒しの場である。子どもや高齢者がラジオ体操を 365 日やっている。良い場所なのでもっとアピールしていただきたい。

【グループ 3】

- ・町会自治会の担い手がおらず、高齢化している。新しいマンションの住民は「任意だから」という理由で町会自治会に加入しない。新しい街でマンションの住民を巻き込むにはどうしたら良いか。
- ・有明地区では路上駐車が問題になっていて、先月ニュースやワイドショーでも取り上げられた。トラックからゴミが投棄され、街路樹内に家電や尿入りのペットボトルまで捨ててしまう。ドライバーにもそうせざるを得ない要因があって、構造的な問題もあるので、ドライバーにも配慮した解決策が導き出せると良い。
- ・江東区には運河、内部河川があり、そこで魚の大量死があった。集中豪雨によって水底が攪拌されてそれが原因らしいが、温暖化対策や環境問題に繋がる。有明の路上駐車では、東京都の条例でアイドリングストップしなければならないはずが、エンジンをかけっぱなしにしてしまう。これも温暖化対策に繋がる。

- ・運河、内部河川の活用について、場所によっては綺麗になって魚が跳ねているような環境もあり、水上交通やイベントを絡めた水辺利用を一緒に考えていきたい。
- ・防災面では、訪問介護の訪問先でいきなり震災があったらどこにどうしたらよいのかわからないので、もう少し周知されれば良い。垂直避難場所についても、知られていない。避難所は大きな文字で夜間でも見えるようにしたら良いのではないかな。また、女性職員も防災担当にしていきたい。
- ・DXに関してはプロセス自体を新しく見直していくことが必要である。今は部署によってバラバラな感じがある。さまざまな取り組みを連携させて、地域のまつりごとにしていくことが必要である。
- ・子育てしやすい区なのにそのポテンシャルが伝えきれてないのではないかな。学校ごとに特色を持たせると、流入する人が増えるのではないかな。

【グループ 4】

- ・区民と区長の対話がまだまだ足りていない。しっかり区民と区長と区がコミュニケーションを取れるとよい。「こうとう未来ミーティング」という素晴らしい取り組みをもっと増やしていきたい。
- ・子育ての支援や介護の支援がいろいろある中で、若者世代に対する支援が手薄になっているイメージがある。若者世代が区政に関心を持ち、区政に参加できる、若者の声を届けられるようなシステムができると良い。
- ・介護について、知っていればいろいろなサービスがあるが、情報にたどり着くことが大変で1人で抱え込んでいる。一例として、高齢者の方のオムツは結構高いが、自分で買っていた長寿サポートセンターで資料を読むと、実はオムツを支給されるサービスがあることをずいぶん経ってから知った。そういうサービスにたどり着くまでが、当事者にとっては本当に大変である。自分は介護に精いっぱい、知るすべがないという現状がある。
- ・有償無償のボランティアで、介護の経験をした人が区と当事者の間に何らかの形で入ってサポート役になれるような仕組みができないか。橋渡しして、区民の力をもっと活用できるようなシステムがあると良いのではないかな。
- ・亀戸3丁目には木造の密集地域があり、火事があったときに周りに燃え広がってしまったことがあった。細い道が多いので、消防車も入って来られないという状況もある中で、木造密集地域の対策を早急にお願いしたい。
- ・江東区でみどりの活動をしているが、担当部署が土木部である。みどりの活動は、視点を変えると、子育てとか高齢者の居場所作りとか、あるいは環境教育などいろいろな要素がある。みどりの活動をもっとまちづくりに生かしてほしいので、土木部だけではなく他の部署とも連携していきたい。

第 6 回「こうとう未来ミーティング」(砂町地区)

開催日：令和 6 年 8 月 23 日(金曜日) 18:30~20:30

会場：砂町文化センター サブ・レクホール

参加人数：24名(内、オンライン参加 4 名) *区内在住・在勤・在学

実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・防災にもいろいろあり、水害や台風、地震などに特化したマニュアルが必要ではないか。備蓄品が区の倉庫の 1 階にあることが多く、水害の時に大丈夫か。
- ・高齢化社会において、一人暮らしの高齢者をどうやってサポートしていくのか。その際、DXを活用できるのではないか。
- ・外国人も災害時に守ってくれるのか。
- ・外国人住民について、ゴミ捨てや交通の様々なルールを守ってほしい。そのためにはまずルールを伝える必要がある。そして、伝えるためにはちゃんとコミュニケーションとれていかが重要である。英語や中国語でのコミュニケーションは難しいと思うが、AIを活用しながら外国人の皆様にもルールを伝えて、徹底してもらってはどうか。
- ・南北交通について、亀戸から新木場までの交通には基本的にバスしかない。また、自転車の走り方が危ない。私も 0 歳児の子育てをしているが、不安である。南北交通では将来的には地下鉄 8 号線の延伸もあるが、旧貨物線の路線を活用すること等含めて新しい交通が検討できないか。
- ・今子育てをしているが、産後ケアを含めてサポートいただいて本当にありがたい。日本全体の話として、個性をより尊重する教育方針があると良い。
- ・ふるさと納税について、切子くらいしか江東区の物産品がなく、豊洲市場に関するものや花火大会の参加券など、江東区らしさを PR できないか。
- ・地域コミュニティについて、なかなか町会に加入してもらえない。フリーライダーも多く、解決策は出にくい、必要なことである。

【グループ 2】

- ・子育て支援や教育対策で、中高生向けの支援が江東区にあったら良い。赤ちゃんや高齢者向けの支援はあるが、中高生にも進路や将来を考える段階でのサポートがほしい。
- ・大学生が就職活動等で志望理由などを深めていくために、高齢者にその経験を聞いたり、高校生が心配していることを具体的に相談できたりする機会や場所があったら良い。
- ・江東区は子育て支援がかなり手厚いが、若い人たちはその全てを駆使できてないのが問題である。
- ・子育てについて、親の視点から区にサポートしてもらうことがメインになるが、子どもたちが将来大人になって、江東区を好きになるという視点も必要である。
- ・江東区には亀戸や門前仲町のような歴史のある場所もあれば新興の豊洲もあり、素敵な場所がいっぱいある。臨海部の夢の島マリナーは少し生活圏と離れており、また、PRも不十分のため知られてない。夢の島のマリナーは東京都の施設だが、入口にかなり広い緑のスペースがあり、何も活用されてなくて勿体ない。こどもの時からそういう場所を知ってもらい、小さいうちから区の素敵な場所を知ることによって江東区を好きになり、長く江東区に住んでもらえると良い。

【グループ 3】

- ・虐待児のアフターケア事業について充実してほしい。
- ・若者と社会が繋がり、支え手が増えていくような事業が広がっていくと良い。
- ・DXについて、区役所のWi-Fiが弱い。また、紙媒体が多く、PDF化を進めてほしい。
- ・防災について、江東区は高齢者や外国人居住者も多い。そういった中で避難所運営サポーターが募集されているが、今、現状としてどのくらい応募されているのか気になった。

【グループ 4】

- ・子育て支援について、助成金など親向けに制度があると思うが、中高生が恩恵を受けていると感じる機会がない。小学校までは学童など居場所があっても、中学生になった瞬間、公立でも学童のような制度がなく、学校が終わって家に帰ってから結構長い時間、家にひとりであることが多い。
- ・高校生になってからは、勉強するスペースが欲しいと感じるようになった。図書館に勉強スペースがあっても席の数が少ないので一日中使っているのは申し訳なく、集中して勉強できるスペースがない。図書館でなくても、公共施設の部屋に机と椅子だけ置いて勉強できるスペースが欲しい。また、図書館は食事をしたり一日中いることができない。食堂が同じ建物にあると嬉しい。

- ・防災について、自治会の方から2019年の台風の時の経験について話があった。避難所を自治会が運営するにあたり、江東区の職員が鍵を開けなければならないが、職員が近くに住んでいるとは限らず、実際に鍵が開けられない状況があった。区の職員はできれば江東区在住の方を優先に採用し、防災について教育をしていただけると良い。
- ・今回10代の方が参加されたが、こういう場はどうしても年齢層が高くなりがちである。10代の方が参加するからこそ、明るい未来のために色々な要望も聞ける。勉強する場所がないという話は聞いていたが、それを提案する場所や機会がなかった。
- ・自治会の問題はどこでもあるが、自治会は高齢者の集まりの場ではない。ママさんが参加しても良いし、10代の方が参加しても良い。
- ・北砂の集合住宅では、大学生と一緒にゴミ拾いや防災訓練をやってもらったことがある。外国人の方が多いため、大学生に英語の通訳もしてもらった。若い方が率先して動いてくれ、若い方にとっても経験になる。ぜひ10代の方にもこういう意見交換の場を利用して、どんどん学校の友達にも「今日良かったよ」と、広めてもらいたい。今後も色々な地域と繋がりたい。

【オンライン参加者グループ】

- ・防災時のペットの同行避難について事前に情報が十分収集できない。事前準備をしたいと思うので、どうしたら良いのかももう少し情報を出してほしい。
- ・実際に災害が起きた時、障害のある方や高齢者の方は自宅避難になってしまうのではないかと心配である。
- ・気象災害が最近出ているが、関連して気候変動について地域、あるいは、江東区、東京都としてどうしていくべきか皆と考えていきたい。
- ・もっと江東区のことを知りたいので、交流できる場があると良い。交流はリアルだけではなくてオンラインやDXあるいはAIも使えるそう。その際、高齢者を始め、使えない方に対するフォローも大切である。
- ・人生の最期に向け、どのように最期を迎えたいかについて考えるような機会を地域で持てないか。
- ・「子育て」についての政策はあるが、公教育について地域あるいは周りがどういうふうに関わったらいいのか見えない、接点を持てないということが問題意識としてある。
- ・8つの政策の中に「分身ロボット」の話が出ていたが、実際見に行った方からその紹介があり、情報共有ができた。

第 7 回「こうとう未来ミーティング」(白河地区)

開催日：令和 6 年 9 月 8 日(日曜日) 10:00~12:00

会場：深川江戸資料館 レクホール

参加人数：17名(内、オンライン参加1名) *区内在住・在勤・在学

実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・江東区は外国籍の方や新しい方など多様な方がいる。民間の企業や病院もある。そういった多様な力と DX の力を基盤として、もっとインクルーシブで安心な地域社会をつくることのできるポテンシャルがある。一方で、防災や、新しいタワーマンションの増加、液状化の問題など、気になる課題もある。
- ・都市整備では、新しい地下鉄網やコミュニティバスなどの案もあるが、南北のアクセスの難しさがある。特に介護や障害福祉の分野では不便を感じている方もたくさんいる。解決策として DX を活用したライドシェアなどの新しい方法考えられるのではないかな。
- ・図書館、保健相談所などの大変素晴らしい施設をもっと活用することで、住民の価値観をインクルーシブに変えていけるポテンシャルがある。
- ・子育て、女性に関して、既に頑張っている施策もあるが、「点」の施策になっている。6 歳まで、小学校、中学校とつながる終わりなき子育てを支援してほしい。
- ・女性も誰もが、もっともっと活躍できる環境整備が非常に重要になっている。
- ・江東区は魅力が非常にある地域だ。下町の文化も残っていて、人と人の繋がりもある一方で、外からの新しい人を少し寄せ付けないというところもある。地域の力をパワーにして、インクルーシブな社会、助け合いの地をつくるポテンシャルがある地域である。これを行政だけがやるということではなく、民間の力も使う。例えば、行政の中に人材として民間の方を入れるのも一つの手ではないかな。
- ・DX は車の運転と同じように誰もが使いこなし、DX によって人間力を引き出すことが一番の鍵になってくると思う。それを進めるためには、行政だけではなく、みんなで社会課題を解決しながらつくっていく、といった体制作りが必要ではないかな。

【グループ 2】

- ・町会の広報について、若いお母さんたちをどうやって町会に巻き込むか。町会の活動はいろいろやっているが、ポスターを作って広報してもなかなか人が集まらない。町会の運営では、高齢化の問題があるが、若いお母さんたちは忙しく、運営や企画を提案するところに参加できない。
- ・一つの町会だけではなく、複数の町会や学校を巻き込んで、大きなコミュニティで活動を起こしていくことが大事なのではないか。
- ・こども主体で町会の活動を進めることも大事なのではないか。若いお母さんたちは忙しいので、例えば、こどもを巻き込んで、こども会の活動を活性化させることで、お母さんたちも巻き込んでいくことができるのではないか。また、こどもが大学生など大きくなると、お母さんたちも地域から遠のいてしまうので、活動にどんどん巻き込むためにも町会長たちの力も大事ではないか。
- ・高校生などは、LINE など IT の力を借りても、町会活動につなげるのは難しい。
- ・自分も、こども会に参加してきたが、こどもの年齢が上がってくると、地域活動への参加が少なくなる。友達やこどもも行かなくなれば、行く機会が減る。
- ・町会の皆さんが、こどもが小さいうちから育ててくれている。お母さんに対しても、そういったコミュニティがあり、「元気にしているか」「今日おいで」と言ってもらえると、行ってみようという気持ちになる。まちの中に行く場所があるのが今すごく嬉しいと痛感している。このように、声をかけてもらえるコミュニティが、人を集めていくきっかけになる。
- ・防災については、助ける側、共助の側の人が必要というところが、常に課題としてある。
- ・高校生や女性もタッグを組んで、防災行動力を高める。小さいうちから取り組むことで、まちの中でご縁がある人達を誰ひとり取り残すことなく助ける、という意識を育てていきたい。そのための教育が大切で、消防団としても防災行動力を育てていきたい。
- ・情報伝達について、回覧板をアナログから LINE にするという話もあるが、扱いづらい年代も、得意な年代もいる。大きな枠組みで江東区からも協力・指導をいただき、情報を共有していきたい。

【グループ3】

- ・高齢者とこどもが交流できる場をつくり、高齢者の方には昔ながらの遊びを教えてもらい、こどもたちと一緒に遊んでもらう。読み聞かせなどの時間を作ってもよい。
- ・学童保育の対象にならなくなった小学校（高学年）を一時的に高齢者が見守ってあげるような時間帯があっても良い。そうすることで、お買い物に行きたいが、こどもがいるから行けないというお母さん、お父さんたちも、こどもを気にしないで買い物に行く時間が持てる。シングルで子育てをしている人、ワンオペ家事・育児になっている人のサポートにもなるのではないかな。高齢者の孤立、孤独、寂しさの防止ということもあるが、こどもにとっても良い効果がある。小さい頃から高齢者と触れ合っている人は、将来高齢者をサポートする傾向があるという研究がある、と聞いた。また、高齢者とこどもの場にお母さん、お父さんが迎えに来ること、親世代と高齢者の繋がりも生まれる。
- ・高齢者とこどもが繋がることで、親世代の参入を促すためにも、「お祭り」などを町会でも頑張っていきたい。
- ・地域と住民の繋がりについて、最近、新しいマンションの人たちが町会に入ってくれないという話を聞くが、マンション住民でも町会に加入しているという成功例を共有する場があったら良いのではないかな。
- ・地域の繋がりとして、地域包括支援センターとの連携という話があった。
- ・地域の見守り支えあいセミナーに出たが、老々介護、老々見守りの話があった。町内会の見守り隊も高齢化している。若者たちが町会に入会していくことでより強い見守りができる。そのためにも、地域包括支援センターの機能を周知し、活用してもらいたい。
- ・せっかく江東区で「認知症サポーター養成講座」をやっているのだから、地域のスーパーとかコンビニの店員に対しても教育ができるようになると良い。
- ・外国人との繋がりについて、学校のグローバル化や多様性への理解について、日本語ができる外国人のこどもたちが多いので、こどもたちが地域のイベントに参加することで、地域との交流を深めていける。高齢者とこどもの交流の場にも、外国人のこどもに積極的に参加してもらうことで日本文化の浸透もできる。
- ・最後に江東区で「婚活支援イベント」をやってみてはどうか。区内のカップルの定住、それからこどもの少子化対策にもつながる。

【グループ 4】

- ・江東区がもっと良いまちになるためのキーは「繋がり」である。8つの政策の一つ一つは意味のあるものだが、さらに人と人との繋がりを持つことで、評価ができ、政策の意味をなす。
- ・待機児童について、今はゼロだというのが本当か。こどもたちが人的環境においても物理的環境においても親も子も本当に納得して保育の質が高いところに預けられているのか。我慢して行っている人もいるのではないか。
- ・こどもが熱を出したとき、共働きだと預け先がなくて仕事を休む。近くに両親や親戚がいない場合は自分たちに負担がかかってくる。
- ・特別養護老人ホームについて、江東区には年金の範囲内で支払って住める場所が少ない。
- ・地域の課題をどう解決していくかという、こどもがキーワードになってくる。こどもたちが思いやりを持って育ていってくれれば、今後このまちをサポートしてくれるのではないか。そのため、こどもに関わることで、町会で御神輿を担ぐとか、行事やイベントに参加してもうといった繋がりは今でもある。高齢者からいろんなことを学ぶ、こどもを高齢者が見守るということは事実としてある。
- ・潜在的保育士など、高齢者でもお子さんのケアができる。そのような人のお力を借りて、熱が出たときに援助してもらうとか、中高生や大学生、ヤングケアラーの人など、高齢者からの意見や話を聞いてもらうことで救われることがある。
- ・様々な世代の関わりをもっと増やせる場を実際に作ってはどうか。空き店舗や空き家の活用も取り組みの一つになる。
- ・企業主導型保育事業（認可型保育園）の園長として仕事をしていたが、火事が出たときに、隣の保育園にそのまま逃げるといふ仕組みを作った。認可外同士だったが、園同士の繋がりもできた。いざ何かあったとの仕組みをつくることで、1人1人の危機管理能力が上がり、人と人も繋がっていくのではないか。
- ・思いやりのあるこどもが育つことで、おそらく江東区に将来できる特別養護老人ホームの支援側になったり、防災に対して、支援側の人材育成に繋がっていく。その結果、江東区に住んでいたい、住んでみたい、戻ってからも住んでみたい、というまちづくりになるのではないか。

第 8 回「こうとう未来ミーティング」(富岡地区)

開 催 日 : 令和 6 年 10 月 24 日(木曜日) 18:30~20:30

会 場 : 深川東京モダン館 多目的スペース

参加人数 : 25 名(オンライン開催なし) *区内在住・在勤・在学

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・ 深川をはじめとして区内ではお祭りがたくさん開催されているが、若者や移住者が、参加したくても参加の仕方がわからない。そのため、インターネットで呼びかけたり、若い人の交友関係を築けるようなイベントを開催したりするのはどうだろうか。また、移住した方も一度お祭りを経験すれば、すぐに仲良くなれるのではないかな。
- ・ さらなる共生社会に向け、障害者スポーツの普及や理解を深めるために、健常者と障害者が触れ合える機会を作る。例えば、江東区のシーサイドマラソンに「誰でも1キロ」という枠を新設したらどうか。障害者、高齢者、子育て中の親はベビーカーを押しながら参加し、順位や記録を競い合うのではなく、それぞれのペースでスポーツを楽しめる機会を設けたらいいのではないかな。
- ・ 災害時の対応について、台風の時にスピーカーの内容が良く聞こえず、避難して良いかわからないので消防署にわざわざ問い合わせた避難をした。
- ・ 有明ではマンションに若い人が多く、防災訓練をやっても参加が少ない。マニュアルが揃っていても実際に災害が起きたときに皆が避難できるのか不安だ。
- ・ 先日、最終処分場に行ったが、残り 50 年しかゴミが捨てられないという現状があった。私はゴミを減らす、ゴミを資源と分別することを伝える活動をしている。そういったことを伝えられる場があるとよい。
- ・ フリーランスとして働いており、こどもはまだいないが、今後、こどもを育てながら働くとき、福利厚生などの援助が受けられないため、フリーランスのために何か援助があれば嬉しい。他県から親を東京に呼び、一緒に子育てができたらと思っているが、そうした親に来てもらえるような施策があると嬉しい。

【グループ 2】

- ・最近、幼稚園がなくなっている。共働き世帯が増えてきているので保育園の需要は多いが、区立幼稚園の需要は少なく、この数年で半分近くになってしまう予定だ。しかし、幼稚園で子育てをしたい人もいるので、選択肢が減るのは良くない。幼児教育と保育の枠組みを外した「こども園」のような仕組みを活用してはどうか。
- ・若い世帯が最近増えている中で、ワンルームマンションの問題がある。単身や若い世帯は町会に加入しない人がとても多い。顔も見えない中で、どのように防犯、防災に関わっていくか、という問題がある。
- ・若い世代が町会に加入しないため、役員の担い手が減ってきている。
- ・高齢者の免許返納を進めるためにどうしたらいいか。現実的には、ちょっと買い物に行くとき車が使えないと不便になるといった影響が出る。そこで、買ったものを運んでもらえるなどのインセンティブを持たせると免許証の返納が進むのではないか。この課題は江東区に限った話ではないが、まず江東区から小さくはじめてみてはどうか。
- ・江東区の特徴に水と緑があり、豊洲のぐり公園など景色がよく、開けているので、水上花火ができないか。
- ・水路としての活用について、豊洲から日本橋などの広い川の活用はあるが、もう少し細い川の普段使いができないか。しかし、船が通るには泥が川底に堆積していたり、歩行者が歩きやすいように橋をアーチ型からフラットにしていたりするため、舟が通りにくい現状があると聞いた。

【グループ 3】

- ・外国から移住した私達は地震の経験がないので、発災時にどうやって動けば良いか全くわからない。ローカライズされた防災対策の情報がほしい。東京全体の話ではなく、江東区のローカライズされている情報、どの場所に避難すれば良いか等、江東区の特徴的な対策についての情報があった方がよい。その情報をどうやって提供できるか、検討してもらいたい。
- ・最近外国の方も大勢来ている。区内でたくさんのお祭りがあるが、どうやって参加するかという情報が欲しい。
- ・江東区に住んでいる日本人と外国から来ている人をみんな混ぜると面白いまちづくりができる。
- ・祭りやイベントの場所に行くコミュニティバスがあったらアクセスしやすくなる。30分一本でもいいので、循環型のものが欲しい。
- ・防災に関して、ただ単純な防災訓練ではなく、現実に関したものを体験したい。炊き出し訓練や、ベンチの中にある防災グッズを実際に使ってみる等、具体的な訓練を1年に1回でいいのでやりたい。
- ・地震と津波、川の氾濫など複合災害が心配される。そのため、垂直避難の場所を周知していただきたい。

- ・中国や台湾の公園には「健康小路」といって、歩くと足のツボを刺激する石のゴツゴツしたものがある。江東区には4ヶ所しかないので、健康を維持するために、もう少し作ってほしい。
- ・高齢者が銭湯に行きやすくなるような仕組みを作ってほしい。
- ・認知症のなかでも若年性認知症の方がいて、65歳以上の方はカバーされるが、65歳未満の方も行政でカバーしていただきたい。
- ・学校の先生がいろいろな雑事に追われてしまい、一番肝心な子どもと接する機会、触れ合う機会が少ない。雑事を周りの人たちで助けて、先生が本来しなければいけないことをさせてあげてほしい。

【グループ4】

- ・子育てサロンについて、区や国のサポートがほしい。
- ・町会の役員をしている方から、単身の年配の方が多く、近所で倒れた方がいても気づかなかった、という話を聞いた。どうしたら横の繋がりや孤独死を防げるのか。
- ・地域にはいろいろな人がいて、町会では、個々の多様なニーズへの対応が難しいという意見もあった。
- ・若洲ゴルフリンクスは都が管理していると思うが、区民のために、区に取り戻してもらえないか。
- ・23区には火葬場が少なく、待ち時間も長いうえ、料金が安い。臨海部の土地をうまく使って火葬場を作って安くできないか。
- ・10年後を見据えて、住む場所と働く場所が近いと良い。また、多様性のある働き方できるような環境を整えてほしい。
- ・障害のある人や家庭が偏見の目で見られたという経験のある人もいる。特別支援学級や特別支援学校は高校で終わってしまい、その後の選択肢が少な過ぎる。事業所はあるが、その子に合った事業所が見つかるとは限らず、選択肢を増やしていくにはどうしたらいいのか。ただ行政任せにするのではなく、親やコミュニティの繋がりや解決できる環境を作っていけると良い。障害を持つ人たちの、親無き後の幸せをコミュニティとしてどうサポートしていけるのか、考えていきたい。しかし、どのように進めたらいいのか、まだわからないので、経験のある方からご教示いただきたい。

ご意見・ご提案等の実績（全8回分）

〈カテゴリ別件数〉

カテゴリ	件数
暮らし・手続き	106
防災・安全	118
健康・福祉	191
子育て・教育	209
観光・文化・スポーツ	51
都市基盤・環境	202
産業・ビジネス	35
区政情報・その他	157
合計	1069

〈部別件数〉

関連所管部局	件数
政策経営部	127
総務部	134
地域振興部	208
区民部	5
福祉部	103
障害福祉部	33
生活支援部	6
健康部（保健所）	49
こども未来部	102
環境清掃部	31
都市整備部	63
土木部	108
会計管理室	0
教育委員会事務局	91
選挙管理委員会事務局	9
監査事務局	0
区議会事務局	0
合計	1069

上記件数は、こうとう未来ミーティング当日に、区長に対していただいたご意見・ご提案等のほか、「ご意見カード」及び「アンケート」にご記入いただいたご意見・ご提案等を含んだものです。

ご参加いただいた皆様からのご意見・ご提案等は、関連部署に共有し、今後の区政運営の参考とさせていただきます。